

第 16 回夢アイデア

光の纏わる家

— 重ね着する空間の提案 —

背景

われわれの身体は、まず衣服を着て、さらに家具や部屋や建築に包まれ、それを街や都市や自然が囲み、地球の大気圏がさらにその全体を覆っています。その先にはさらには有害な紫外線を遮るオゾン層があって、近年そこにあいた穴が問題となりましたが、実はこれが、われわれが宇宙に対して一番外側に着ている「服」だともいえます。

服なら、暑ければ上着を脱いで襟を開き、腕まくりをし、寒ければ何枚も着込んで襟元にマフラーを巻いて暮らします。しかし、その上に着ているはずの住居や建築はどうでしょう。かつては、夏と冬で障子を替えたり、蚊帳を吊ったり、夜には雨戸を建てたりしましたが、技術文明の発達と共に、機械力に頼るようになって、「服」の内外を断絶する方向に走ってきました。われわれは今、果たしてたった一枚で外界に向かうような宇宙服的な建築を考えるべきなのでしょうか。

「衣服的な建築」、あるいは「重ね着する空間」から発想される斬新な空間を提案します。

提案概要

空間は、光を纏っている。

そのため、今この紙にも色が付いている。

ここには、3色の光が重なり合っており、これによって空間も成立している。

日常の喧騒から解き放たれたウィークエンドハウス。

そこに、光から1色を脱がす大屋根を架けた。

すると光を纏った空間は、秩序を失ったかのように混乱し、光の入り方・落ち方によってその空間は刻一刻と変化を遂げる。

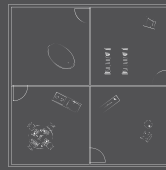
人は、光の色によって、移り気な感情と空間を共鳴させる。そして、空間を纏う様々な色が生活のワンシーンを飾る。

光の纏わる家

空間は、光を纏っている。そのため、今この紙にも色が付いている。ここには、3色の光が重なり合っており、これによって空間も成立している。

日常の喧騒から解放されたウィークエンドハウス。そこに、光から1色を脱がず大屋根を架けた。すると光を纏った空間は、秩序を失ったかのように混乱し、光の入り方・落ち方によってその空間は刻一刻と変化を遂げる。

人は、光の色によって、移り気な感情と空間を共鳴させる。そして、空間を纏う様々な色が生活のワンシーンを飾る。



plan



section



model

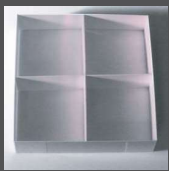


fig. 01



fig. 02



fig. 03



fig. 04



fig. 05

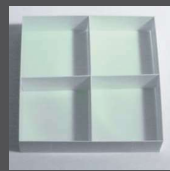


fig. 06

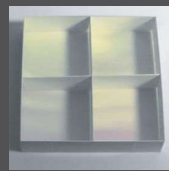


fig. 07



fig. 08



fig. 04



fig. 08



fig. 06



fig. 07

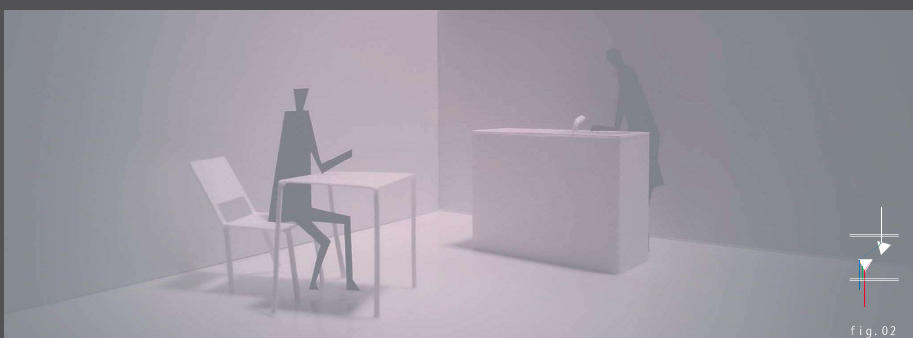


fig. 02

光の色が持つ波長の違いを利用し、空間内に落ちる色を変化させる。偶発的に様々な姿の光が空間に浸透し、無限の色合いを生む。

